

# 平成25年度公社等点検評価表

(一次点検評価・二次点検評価)

公社等名	公益財団法人ふくしま海洋科学館
所管部局	企画調整部
担当課	文化スポーツ局生涯学習課

## 《評価資料》

1	公社等点検評価表	1
2	付表1(概要)	8
3	付表2(実施事業)	9
4	付表3(経営状況)	17
5	付表4(経営分析等)	18
6	付表5(組織人員体制)	20
7	付表6(県関与の状況)	21
8	別紙1(県の財政的関与(支援)の内訳)	22
9	別紙2(役員等の状況)	23

〔一次点検評価：公社等の自己点検〕

視点1：計画性（マネジメントサイクルの確立）

公社等経営の理念・目標・方針などが、各種計画等に反映され、事業の企画立案、実施、評価、改善が行われているかという、経営マネジメントサイクルの視点

1 マネジメントサイクルの確立

経営計画等の具体的な成果目標とこれまでの評価、事業目標とその実績（付表2）の評価

(1) 経営計画等について

- ① 財団法人ふくしま海洋科学館新・中期経営計画（平成21年度～平成25年度）
- ② 平成24年度財団法人ふくしま海洋科学館事業計画

(2) 成果目標について

中期経営計画の成果指標を①入館者数、②パスポート保有者数、③幼稚園・学校教育減免者数、④研究発表数、⑤移動水族館車の出勤回数、⑥投げ込みによる新聞・テレビ掲載数、⑦共同事業実施数、⑧提携旅館・ホテル等からの送客数、⑨附帯事業会計からの繰出金とし、それぞれ目標数値を定めたが、平成23年3月11日の東日本大震災にかかる原発事故の風評被害等により、平成24年度の入館者数は震災前の水準には遠くおおよばず、⑦⑨のみ目標を達成するにとどまった。

(3) 事業目標と実績の評価

- ① 展示生物については、水生生物保全センターが壊滅的被害を受け、復旧できなかったため、生物のストックや蓄養ができず、収集・展示活動は安定を欠き、余裕のない運営を余儀なくされた。
- ② 原発事故による風評被害の影響が大きく、平成24年度も入館者数は回復せず、震災前の平成22年度比約40%減の522,269人にとどまり、連動してショップ、レストランの売上も低迷した。
- ③ 平成24年度は、最低入館者数を記録した前年度に比べれば回復したものの、震災前と比べると依然入館者の落ち込みは続いており、成果指標においても2項目しか目標に達することができなかった。しかし、これはあくまでも震災及び原発事故に起因する特殊事情によるものであり、その中でも当財団としてできることはすべてやったと考えている。

今後も入館者が震災前の状況まで戻り、安定的に運営できるよう、出来る限りの努力をしていく考えである。

2 マネジメントサイクルにおける環境変化・住民ニーズの把握方法

- (1) 来館者へのアンケートを実施し、来館者の属性や来館のきっかけ、主な立ち寄り先や宿泊地、満足度や意見要望の把握を行っている。
- (2) 小名浜まちづくり市民会議やあぶくま発見の旅サポート（いわき地区の8文化施設の連絡会）、港会（小名浜港関連の16公的機関）、3社協議会（アクアマリンパーク立地の3団体）などの会議等に参加し、地域の団体の一員として地域との連携を深め情報収集等に努めている。
- (3) 公益法人制度においては、平成24年度に移行手続きを進め、平成25年4月1日から公益財団法人へ移行した。
- (4) 東日本大震災に起因した原発事故により拡散した放射性物質の自然環境への影響について、東京海洋大学、金沢大学と共同で調査、研究を行い、調査結果は情報コーナーに掲示したほか、講演会等で広く情報を発信した。
- (5) かつての里山、里川、里海の自然は、子ども達の「命の教育」の場であったが、それら身近な自然が失われてしまった今、子ども達に「命の教育」の機会を提供し、真に環境に優しい次世代を育成し、豊かな心を育てることは当館の使命であると考えている。これまで「BIOBIOかっぱの里」「蛇の目ビーチ」を整備し、さらに「アクアマリンえっく」の完成により「命の教育」の場を拡充し、展開してきた。

現在、アクアマリンふくしま敷地内に縄文時代の里山を再現し、山・川・海の循環と緑の森を創出させる「わくわく里山計画」の検討を進めており、これにより、子ども達の「命の教育」及び「子育て支援」を強化充実させ、地域の自然を総合的に展示する新しい水族館として事業を展開し、他水族館との差別化を図る。

## 視点2：経済性・効率性

### 事業の収支バランスと採算性・収益性の視点

#### 1 経営状況（付表3）及び経営分析等（付表4）についての評価

平成12年度の開館以来、指定管理委託料の額が減少しているが、事業収入の安定確保や支出の見直し等により、平成22年度までは良好な収支バランスが維持でき、安定的な経営を行ってきた。

しかしながら、平成23年3月11日の東日本大震災とそれに伴う原発事故による風評被害により、当館を取り巻く環境は一変し、将来が不透明な状況にある。

平成24年度は、前年度同様東京電力の損害賠償金により、入館者減による収益減を補っている状況にあり、今の賠償割合が、入館者数が震災前の水準に回復するまで継続するのであれば、今後も同様のバランスで安定的な経営が維持できるものと思われる。

ただし、東京電力の損害賠償がいつまで続くのか、賠償割合は維持されるのか等については、東京電力側も明言を避けている状況にあり、突然賠償割合が低く抑えられる可能性もあるため、より効果的、効率的な運営を図る必要がある。

経費削減策については、熱源機の運転調整と季節に応じた設定水温の変更による水槽熱負荷軽減に取り組み、その結果、震災前3年（平成20年度～22年度）の平均と比較して、エネルギー使用量で27.5%減、金額にして年間約3,660万円（-26.1%）の削減を達成することができた。

平成24年度より従来の部課制から、グループチーム制に組織改編し、より横断的な対応を可能にし、様々な課題に一丸となって取り組める体制とした。

震災による施設のダメージは予想以上に大きく、災害復旧工事としては認められていない部分でも不具合が生じており、また水生生物保全センターの復旧の遅れにより生物ストックスペース等がないことから、生物収集にはこれまで以上に労力を費やすこととなり、さらに風評被害による入館者減に対し、積極的な広報宣伝・営業活動を行わざるを得ない等様々な難問に直面している。その中で人件費の抑制や光熱費の削減等による効率化も進めてきたところである。

#### 2 サービス向上策の評価

平成24年度は災害復旧工事が本格化し、1年を通して様々な工事が行われたが、その中であっても年中無休営業を継続し、また夏休み期間やクリスマス期間には開館時間を延長するなど、サービスの向上を図った。

サービス水準の向上及び入館者増加に向け、「わくわく里山計画」の基本構想、基本設計を策定し、新たな体験スペース整備に向けて、財団一丸となって取り組んでいる。

また、うおのぞき子ども漁業博物館を小名浜魚市場からアクアマリンパークの潮目交流館に移設し、本館から徒歩5分圏内となったことで利用しやすくなり、サービス向上につながった。

災害復旧工事による各施設の制限、水生生物保全センターの復旧工事遅れに伴い蓄養ができないことによる展示の脆弱さ、風評被害による入館者減の中、上記のとおりサービス向上策を講じており、今後も入館者数を震災前の水準に回復させるべく努力を続けていく。

〔二次点検評価:左に対する所管部局としての評価〕

視点1：計画性（マネジメントサイクルの確立）

公社等経営の理念・目標・方針などが、各種計画等に反映され、事業の企画立案、実施、評価、改善が行われているかという、経営マネジメントサイクルの視点

1 マネジメントサイクルの確立

(1) 計画性

経営計画については、理事会及び評議員会の議決を経て、平成21年3月に「財団法人ふくしま海洋科学館新・中期経営計画」（平成21年度～25年度）が策定された。本計画は、「海を通して『人と地球の未来』を考える」という財団法人の基本理念を確認する一方で、その前身である「ふくしま海洋科学館・中期経営計画」（平成18年度～20年度）の反省や現状分析を反映したものとなっているため、マネジメントサイクルが確立されていると認められる。

(2) 成果目標と達成状況

本計画において5つの基本戦略と成果目標が掲げられている中で、平成24年度は設定した目標9項目のうち達成されたのは2項目ではある。

東日本大震災にかかる原発事故の風評被害による入館者数の落込等により、目標を達成できなかった。

基本戦略	成果指標	平成24年度	
		実績	目標値
ショーがない水族館・環境水族館路線の堅持	入館者数	52万人	95万人
	パスポート保有者数	7,094人	8,300人
	学校等教育減免者数	1.9万人	4.2万人
長期計画の着実な推進と子ども魚市場など新たな展示への展開	研究発表数	5回	12回
	移動水族館の出動回数	42回	45回
広範なテーマによる企画展示イベントの実施による集客	パブリシティの活用による新聞・テレビの掲載数	166回	260回
	共同事業実施数	8回	7回
連携交流の促進	提携旅館・ホテル等からの送客数	1.7万人	4.2万人
	附帯事業会計からの繰出額	0.85億円	0.59億円
附帯事業会計の強化等による収入の確保			

2 マネジメントサイクルにおける環境変化・住民ニーズの把握方法

経営計画に沿った事業構築を行う一方で、個々の事業を改善していくために、アンケート調査の実施、地域の団体との意見交換等を通して、利用者や地域のニーズの把握にも努めている。

3 平成24年度実施事業に対する評価

(1) 設立目的及び公益性に照らした事業の評価

平成24年度に実施した生物収集事業その他の各種事業は、海洋生物及び海洋文化・科学に関する展示・研究並びに環境保全などに関する教育普及を実施するという法人の設立目的に合致するとともに、公益事業としてふさわしいものであったと認められる。

大学と共同しての放射性物質の自然環境への影響にかかる調査・研究の実施、館内外での当該調査結果の情報提供のほか、子どもたちの「命の教育」及び「子育て支援」を強化充実させるための計画を検討する等、利用者や地域のニーズに対応した事業を展開

しており、評価できる。

(2) 公益事業と収益事業のバランス

収益事業であるミュージアムショップ等の事業とレストラン事業は、ふくしま海洋科学館利用者の利便性を図る目的で実施しており、公益事業に附随する事業であり、収益事業による収益は、公益事業の財源として活用されている。

その事業規模は、公益事業と対比して2分の1以下となっているため、バランスは適正である。

(3) 社会情勢を踏まえた必要性

「持続可能性」と「命の教育」を中心とした環境教育活動は、現代的な課題である環境問題の解決に向けた取り組みであり、その重要性はますます増すものと考えられる。

また、自然体験による子育て支援、放射能汚染問題にかかるニーズは大きくなるものと考えられる。

ふくしま海洋科学館はアクアマリンえっぐを含む、施設の一層の有効活用、関係機関との協力等によって、次代の要請に応える事業を展開していくことを期待する。

4 新たな事業展開に関する評価

「わくわく里山計画」は、持続可能な循環型社会のモデルとして世界的に注目されている里山を、そのルーツである縄文時代で装い屋外に整備しようとするもので、環境に優しい次世代の育成や自然環境の持続的利用の支援を行う環境水族館としての機能を強化する上で有効である。

また、原発事故の影響で屋外活動が制限されている本県の子どもたちに、安全安心な遊び場を提供することで本県の復興を後押しすることにもなり、さらに、水族館・里山・縄文の意外性のある取り合わせが水族館の魅力アップにもつながり、原発事故の影響により低迷している来館者の回復に寄与することが期待できる。

**視点2：経済性・効率性**

**事業の収支バランスと採算性・収益性の視点**

1 県の財政的関与にかかる自己点検について

県は、平成24年度に風評被害による入館料収入減少分にかかる一部補填を含む指定管理料（委託料）を負担した。

法人の経済的かつ効率的な施設の運営に加えて、風評被害等による入館料収入減少分について東京電力からの損害賠償収入やクウェート国からの寄付金収入があったことから、平成24年度の法人の財務状況としては、健全な状況を維持することができた。

しかし、入館者数が震災前の状況まで回復していないこと、今後の東京電力の賠償金の継続については不透明な点があることなど、今後の収支バランスの安定を図る上で様々な変動要因があることから、引き続き法人の財務状況について注視していく必要がある。

2 附帯事業について

ミュージアムショップ等事業やレストラン事業の附帯事業については、その利益の一部が他会計に繰り入れられて、公益事業を実施するために有効に活用されている。

今後とも創意工夫により附帯事業会計収益の安定を図る必要があるが、平成24年度は入館者数が震災前の水準に回復していないことから、その収支については注視していく必要がある。

【参考】附帯会計収入及び他会計への繰出額 ※（ ）書きは他会計への繰出額

平成24年度	337,016千円	(85,000千円)
平成23年度	233,487千円	(40,000千円)
平成22年度	330,381千円	(40,000千円)
平成21年度	324,814千円	(84,500千円)

3 経費節減について

施設管理費について、通年開館した平成24年度は、約3.5箇月休館していた平成23年度の実績より増加している。

しかし、平成24年度は、熱源機の運転調整、水槽熱付加軽減の取組み等の結果、震災前の平成22年度の実績を下回ることができた。

引き続き、創意工夫により施設管理の効率化に努める必要があるが、平成25年度の経費支出については、経年劣化による修繕、福島・クウェート友好記念庭園の整備及び維持管理による経費の大幅増等変動要因が見込まれるため、注視していく必要がある。

【参考】施設管理費の推移

平成24年度	260,866千円
平成23年度	186,495千円
平成22年度	390,577千円
平成21年度	364,302千円
平成20年度	447,930千円

#### 4 サービス向上策について

年中無休営業、夏休み期間やクリスマス期間の開館時間延長、自然体験による子育て支援、「命の教育」プログラムの実践等ソフトウェア活動、放射性物質の自然環境への影響にかかる調査結果を情報提供する等、利用者や地域のニーズに対応したサービスを展開した。

しかしながら、原発事故による風評被害により、依然として入館者数が震災前の水準まで回復しておらず、収支動向については注視していく必要がある。

視点3：課題への対応状況

共通課題1：新公益法人制度への対応（財団法人・社団法人のみ）

- 1 新公益法人制度への対応  
平成25年4月1日付けで公益財団法人へ移行済。
- 2 移行後の課題  
新たな制度のため、運営上でも会計上でも疑問点が多く、また、決算後の定期提出書類の作成・提出という新たな事務が発生したため、事務量が增大している。

共通課題2：東日本大震災からの復旧状況  
原子力発電所事故に伴う損失・損害賠償請求の状況

- 1 東日本大震災からの復旧状況  
平成24年度に本格的な災害復旧工事が行われ、平成25年8月現在では水生生物保全センターの復旧工事を残すのみとなり、復旧完了見込みは平成25年11月末である。  
地震の揺れ、津波の塩害等により、建物・設備の劣化が予想以上に進み、今後大規模な修繕、交換が必要になると思われる。
- 2 原発事故に伴う損失及び賠償請求状況  
原発事故による風評被害により大幅な収入減が続いており、平成22年度の入館料等収入に対し平成24年度の入館料等収入は、587,371,105円の減収であった。  
これに対し、東京電力へは平成23年7月15日分から基準に従って損害賠償を請求しており、平成24年度分として524,756,459円の支払いを受けている。  
25年度も、入館者減の状況が続いているため、今後も賠償金を請求する予定である。

個別課題：県派遣職員の在り方について

平成18年度からの指定管理者制度導入に伴い、施設の指定管理者を目指す他団体との公平な競争原理の確保や、財団の自立性確保の観点から、県派遣職員を暫減していくことが望ましいものとされ、引き揚げが行われている。

この間、財団職員の人材育成や事務処理能力の向上により、財団の自立性は増加している。しかしながら、これまで経験したことのない大震災や原発事故により、さまざまな問題に直面しており、今だからこそ県職員の助力が必要な状況にある。特に「命の教育」を事業の柱の一つに掲げ、現職教員と財団職員が連携し、学校教育との連携も期待されながら様々なプログラムを展開している当財団にとっては、教員の派遣は必要不可欠である。「わくわく里山」の整備を進め、新たな体験プログラムを予定していることもあり、派遣教員の増員が必要である。

〔二次点検評価：左に対する所管部局としての評価〕

視点 3 : 課題への対応状況

共通課題 1 : 新公益法人制度への対応 (財団法人・社団法人のみ)

平成25年4月1日付けで公益財団法人へ移行したが、今後は適切に指導・助言を行っていく。

共通課題 2 : 東日本大震災からの復旧状況  
原子力発電所事故に伴う損失・損害賠償請求の状況

- 1 東日本大震災からの復旧状況  
本館及び子ども体験館の復旧工事については既に終了しており、水生生物保全センターの復旧工事については平成25年度内に終了する予定である。
- 2 原発事故に伴う損失及び賠償請求状況  
平成24年度分は東京電力から法人へ支払済みである。  
依然として風評被害による入館者の減少は続いているため、法人による損害賠償請求を行っていく。

個別課題 : 県派遣職員の在り方について

県派遣職員について、法人の主体的、自主的な経営を促進するため、派遣人数を削減し、その一方でプロパー職員を増やしているところである。  
平成23年度に、1名派遣職員を減らし、一定の取組みを行っているところである。  
通常時であれば、県派遣職員は段階的に削減していくべきとの考えもあるが、東日本大震災による甚大な被害を受けた事による復旧・復興、さらには「命の教育」における学校教育との連携、法人が県と十分に協議して進める必要のある「わくわく里山」の整備等による業務量増大に見合う派遣の継続を検討する必要がある。



# 付表1: 公社概要

公社等の名称	公益財団法人ふくしま海洋科学館					
設立根拠法令	ふくしま海洋科学館条例					
設立年月日	平成10年 4月 1日					
代表者職氏名	理事長 安部義孝					
事務所の所在地	福島県いわき市小名浜字辰巳町50番地					
ホームページアドレス	<a href="http://www.marine.fks.ed.jp">http://www.marine.fks.ed.jp</a>					
県所管部・課	企画調整部文化スポーツ局生涯学習課					
設立目的	海洋生物及び海洋文化・科学に関する展示・研究並びに環境保全等に関する教育普及を実施するとともに、本県にふさわしい地域特性を生かした生涯学習の振興を図り、もって本県教育・文化の振興と生涯学習社会の実現に寄与することを目的とする。					
経営理念・目標等	財団法人ふくしま海洋科学館は、平成19年度を初年度とする中期経営計画を策定し、それに基づき点検・評価を行うとともに、業務の効率化やコスト削減を行うことにより、更なる経営の健全化を目指してきた。平成21年度には新たな5年間の指定管理期間に合わせ、新中期経営計画(期間:平成21年度から平成25年度)を策定し、展示の質の維持・向上、公的事業の実施と民間的経営の両立を目指してきた。しかし平成23年3月11日の東日本大震災により被災し、23年度は休館と原発事故による風評被害により入館者が激減し、これまでの状況と一変してしまった。平成24年度も回復は鈍く、震災前の入館者数には遠く及ばない状況であった。こういった中でも、「海を通して人と地球の未来を考える」という基本理念に基づき、「環境水族館宣言」のもと、生物の生息環境を再現した展示の充実をはかるとともに、自然体験による子育て支援、「命の教育」プログラムの実践、シーラカンス調査等希少生物の保全研究への取り組み等により、「行動する水族館」として内外から高く評価される施設を目指す考えである。					
資本金・基本金 (単位:千円)	20末	21末	22末	23末	24末	25末予定
	150,000	150,000	150,000	150,000	150,000	150,000
県出資額 (構成比)	150,000	150,000	150,000	150,000	150,000	150,000
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
24年度末出資等内訳 (単位:千円) ※県分を除く。	出資順位	団体名		出資額		構成比
	1					
	2					
	3					
	4					
5						
主な事業内容 (詳細:付表2)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 海洋生物(その他の水族を含む)の収集、飼育、展示及び調査研究に関する事業</li> <li>2. 海洋文化・科学に関する資料の収集、展示及び調査研究に関する事業</li> <li>3. 海洋に係る生物・文化・科学等に関する教育普及に関する事業</li> <li>4. 海洋生物の保護及び保全の研究に関する事業</li> <li>5. 福島県が設置するふくしま海洋科学館の維持管理に関する事業</li> <li>6. ふくしま海洋科学館及び水族に関する広報宣伝等、利活用に関する事業</li> <li>7. 物品の販売等に関する事業</li> <li>8. その他目的を達成するために必要な事業</li> </ol>					

## 付表2:実施事業

1	事業名	生物収集事業					公益事業	収益事業
	事業内容	展示及び研究目的のための生物(水生生物、陸上小動物及び植物)の採集、購入及び輸送を実施する。						
	目標	淡水生物、沿岸生物、深海生物、北方系生物、南方系生物、サンゴ礁・マングローブ生物、植物の採集購入により展示内容の充実を図る。						
	事業実績	飼育生物数(各年度末時点)20年度末1,223種183,738点、21年度末1,214種383,358点、22年度末684種27,495点(東日本大震災により激減)、23年度末1,138種72,434点(他園館からも多くの展示生物の提供を受けた)、24年度末1,234種84,299点						
	事業費 (単位:千円)	20決算 35,245	21決算 29,717	22決算 22,506	23決算 23,394	24決算 24,287	23/20 66.4%	24/20 68.9%
2	事業名	南方系生物蓄養事業					公益事業	収益事業
	事業内容	南方系魚類(黒潮大水槽及びサンゴ礁水槽展示生物)を収集し、奄美大島の海上生け簀にて蓄養し輸送する。						
	目標	海上生け簀による蓄養・搬入により展示内容の充実を図る。						
	事業実績	奄美大島の海上生け簀にて、キハダ・カツオの蓄養、搬入を実施。						
	事業費 (単位:千円)	20決算 15,318	21決算 19,465	22決算 17,216	23決算 7,358	24決算 13,751	23/20 48.0%	24/20 89.8%
3	事業名	水生生物保全センター運営事業					公益事業	収益事業
	事業内容	採集及び飼育が困難とされる生物の飼育実験及び繁殖研究を実施し、新規の展示開発に取り組むとともに、収集が困難な植物の実生栽培等も行い、独創性のある植物展示に結びつける。						
	目標	サンマ・メヒカリの飼育、深海性・外洋性生物等の飼育。						
	事業実績	水生生物保全センターは震災により被災し、24年度も復旧されなかったため、展示生物のストックや蓄養ができず、安定した展示を行うことができなかった。本館空きスペースにおいて県内希少生物ゼニタナゴ、シナイモツゴの繁殖、深海性生物ヤエギスの育成を行い、またアバチャンの繁殖賞を受賞した。						
	事業費 (単位:千円)	20決算 6,030	21決算 12,451	22決算 12,348	23決算 4,807	24決算 11,881	23/20 79.7%	24/20 197.0%

※1 事業名:実施しているすべての事業を記載してください。

(ただし、事務局運営事業など管理運営的な事業は除く。)

※2 目標:事業の目標(原則数値目標、設定されていない場合は定性的な目標)を端的に記載してください。

※3 事業実績:目標に対する実績や事業実施に伴うサービス水準の量の変化等を端的に記載してください。

## 付表2:実施事業

4	事業名	飼育生物管理事業					公益事業	収益事業
	事業内容	収容生物(植物を含む)の展示・飼育管理、BIOBIOかっぱの里、蛇の目ビーチの環境整備、水生生物保全センター、アクアマリンえっぐの飼育管理を行う。						
	目標	収容生物の展示・飼育管理等を行う。						
	事業実績	水槽数・・本館75槽、水生生物保全センター0槽、アクアマリンえっぐ27槽、BIOBIOかっぱの里1槽、蛇の目ビーチ1槽						
	事業費 (単位:千円)	20決算 118,092	21決算 128,431	22決算 117,420	23決算 82,942	24決算 111,155	23/20 70.2%	24/20 94.1%
5	事業名	研究交流事業					公益事業	収益事業
	事業内容	学会及び各種研究会へ参加し、先進技術情報の収集を行い、展示並びに教育普及活動に反映させる。また、友好締結園館との生物及び技術交換等の交流事業を行う。						
	目標	各種学会及び研究会への参加、友好締結園館への職員研修を実施する。						
	事業実績	東京大学大気海洋研究所のシンポジウムで「飼育下におけるエゾイソアイナメの繁殖生態」、「飼育下におけるマルアオメエソの行動生態」の研究発表。第8回世界水族館会議で「水族館の持続性」と題し、発表等。また、新たにクウェート科学研究所と友好館提携を行った。						
	事業費 (単位:千円)	20決算 14,064	21決算 17,854	22決算 13,726	23決算 6,426	24決算 21,591	23/20 45.7%	24/20 153.5%
6	事業名	企画管理事業					公益事業	収益事業
	事業内容	接客技術及び利便性の向上等により来館者サービスの向上に努め、来館者の増加を図る。						
	目標	受付・案内誘導業務の専門業者への委託、年間パスポートの販売によりサービス向上に努める。						
	事業実績	年間パスポート販売件数・・20年度7,822件、21年度8,231件、22年度8,386件、23年度5,290件、24年度7,094件。「福島県子育て応援パスポート事業」に協賛。						
	事業費 (単位:千円)	20決算 66,499	21決算 60,497	22決算 91,210	23決算 50,992	24決算 62,171	23/20 76.7%	24/20 93.5%

※1 事業名:実施しているすべての事業を記載してください。

(ただし、事務局運営事業など管理運営的な事業は除く。)

※2 目標:事業の目標(原則数値目標、設定されてない場合は定性的な目標)を端的に記載してください。

※3 事業実績:目標に対する実績や事業実施に伴うサービス水準の量の変化等を端的に記載してください。

## 付表2:実施事業

7	事業名	広報宣伝事業					公益事業	収益事業
	事業内容	ふくしま海洋科学館の特色を県内外にアピールするとともに、企画展等の開催が来館者の増加とリピーターの満足度向上に繋がるよう、パブリシティを活用した広報活動や各種媒体による広報宣伝活動を展開する。						
	目標	テレビ、ラジオ及びCMの放送、旅行誌等への広告掲載、マスコミへの情報提供、テレビ及びラジオへの出演、チラシ配付、ホームページによる広報を実施。						
	事業実績	テレビCM放映局数(県内、県外)・・20年度57局、21年度57局、22年度40局、23年度23局、24年度46局						
	事業費 (単位:千円)	20決算 100,062	21決算 117,798	22決算 87,870	23決算 27,685	24決算 73,530	23/20 27.7%	24/20 73.5%
8	事業名	観光誘致事業					公益事業	収益事業
	事業内容	首都圏及び隣接県を中心に、県内外の旅行エージェント等に対する積極的なPR活動及び営業活動を展開する。また、地域の観光関係団体、観光施設等との連携により一層の誘客を図る。						
	目標	エージェント等への営業訪問を実施する。観光懇談会、キャラバン等へ参加し積極的な誘客事業を行う。						
	事業実績	観光券取扱契約業者からの送客数・・20年度32,867人、21年度24,160人、22年度23,712人、23年度6,336人、24年度25,853人。 旅客斡旋手数料支払契約業者からの送客数・・20年度16,126人、21年度12,758人、22年度11,145人、23年度2,511人(震災及び原発風評被害により県外からの団体客激減)、24年度11,276人。						
	事業費 (単位:千円)	20決算 9,406	21決算 8,541	22決算 9,252	23決算 2,230	24決算 6,839	23/20 23.7%	24/20 72.7%
9	事業名	地域交流事業					公益事業	収益事業
	事業内容	周辺地域との交流を深めて地域に根ざした施設づくりを進め、地域振興に貢献する。						
	目標	小名浜港まつりへの協賛、あぶくま発見の旅サポート事業の推進、まちづくり市民会議への参画。						
	事業実績	小名浜まちづくり市民会議等への参加等、周辺地域との交流を深めた。						
	事業費 (単位:千円)	20決算 2,599	21決算 962	22決算 1,306	23決算 715	24決算 1,461	23/20 27.5%	24/20 56.2%

※1 事業名:実施しているすべての事業を記載してください。

(ただし、事務局運営事業など管理運営的な事業は除く。)

※2 目標:事業の目標(原則数値目標、設定されていない場合は定性的な目標)を端的に記載してください。

※3 事業実績:目標に対する実績や事業実施に伴うサービス水準の量の変化等を端的に記載してください。

## 付表2:実施事業

10	事業名	解説活動事業					公益事業	収益事業
	事業内容	子供から大人まで多くの人々が、海の生物や環境について楽しみながら学び、考え、交流のできる施設をめざし、一般来館者を対象とした解説活動を実施する。						
	目標	マリンガイドによる館内各所におけるスポット解説、シーラカンスの世界における映像やクイズを交えながらの解説等を実施する。						
	事業実績	ボランティアによるバックヤードツアーを毎日開催した。(平成24年度参加者27,681名。)						
	事業費 (単位:千円)	20決算 20,429	21決算 18,257	22決算 25,948	23決算 11,000	24決算 15,632	23/20 53.8%	24/20 76.5%
11	事業名	アクアマリンえっぐ命の教育事業					公益事業	収益事業
	事業内容	節足動物の展示による生物多様性のメッセージを発信し、また展示生物の生態等をゲームを通して気付かせる自然体験ゲームを実施する。						
	目標	自然体験ゲーム、プランクトンの解説、絵本の読み聞かせ等を行う。						
	事業実績	自然体験ゲーム・・・参加人数2,329人						
	事業費 (単位:千円)	20決算 -	21決算 -	22決算 -	23決算 -	24決算 他事業費より	23/20 #VALUE!	24/20 #VALUE!
12	事業名	企画展開催事業					公益事業	収益事業
	事業内容	来館者サービスと広報を兼ね、常設展示とテーマを定めた企画展を開催する。						
	目標	「小名浜国際環境芸術祭」「キッズアート展」等の企画展を開催する。						
	事業実績	企画展開催件数・・・20年度13件、21年度12件、22年度10件、23年度7件、24年度7件。						
	事業費 (単位:千円)	20決算 67,626	21決算 63,718	22決算 91,089	23決算 17,209	24決算 37,090	23/20 25.4%	24/20 54.8%

※1 事業名:実施しているすべての事業を記載してください。

(ただし、事務局運営事業など管理運営的な事業は除く。)

※2 目標:事業の目標(原則数値目標、設定されていない場合は定性的な目標)を端的に記載してください。

※3 事業実績:目標に対する実績や事業実施に伴うサービス水準の量の変化等を端的に記載してください。



## 付表2:実施事業

13	事業名	展示事業					公益事業	収益事業
	事業内容	魅力ある展示を維持するため、展示品、種名板及び情報ソフト等の更新を随時行う。						
	目標	展示の充実を図る。						
	事業実績	オセアニックガレリア各展示ブースの情報更新と拡充、アクアマリンアグリでの旬の野菜栽培と展示、アクアマリンえっぐの展示造作や遊具の修繕、シーラカンスの世界の展示変更等。						
	事業費 (単位:千円)	20決算 9,280	21決算 12,025	22決算 5,213	23決算 2,696	24決算 3,890	23/20 29.1%	24/20 41.9%
14	事業名	学校教育関連事業					公益事業	収益事業
	事業内容	学校及び社会教育施設との連携を図りながら、海の生物、海洋文化・科学に関する学習支援事業を推進する。						
	目標	館内学習、館外授業、ガイダンス及び移動水族館専用車輛の活用等により学習支援事業を実施する。						
	事業実績	移動水族館専用車による移動水族館の開催…20年度7市町村18日開催、21年度12市町村18日開催、22年度10市町村18日開催、23年度7市町村20日開催、24年度9市町村11日開催 (このほか広報宣伝活動、営業活動にも使用)						
	事業費 (単位:千円)	20決算 2,758	21決算 3,329	22決算 1,941	23決算 2,789	24決算 3,461	23/20 101.1%	24/20 125.5%
15	事業名	情報提供事業					公益事業	収益事業
	事業内容	インターネットや機関誌を利用して、活動状況や水生生物及び海などに関する情報を提供する。						
	目標	ホームページの随時更新、機関紙(AMF NEWS)年4回の発行。						
	事業実績	情報コーナーにおいて被災復興関連及び放射線関連の解説を実施。ホームページ、フェイスブック、ツイッターで情報提供。機関紙(AMF NEWS)を年4回発行。						
	事業費 (単位:千円)	20決算 3,185	21決算 3,393	22決算 3,160	23決算 2,918	24決算 3,334	23/20 91.6%	24/20 104.7%

※1 事業名:実施しているすべての事業を記載してください。

(ただし、事務局運営事業など管理運営的な事業は除く。)

※2 目標:事業の目標(原則数値目標、設定されていない場合は定性的な目標)を端的に記載してください。

※3 事業実績:目標に対する実績や事業実施に伴うサービス水準の量の変化等を端的に記載してください。

## 付表2:実施事業

16	事業名	施設管理事業					公益事業	収益事業
	事業内容	福島県との協定に基づきふくしま海洋科学館、水生生物保全センター、子ども体験館アクアマリンえっぐ及び海水取水・送水施設並びに備品等の固有財産の維持管理・修繕を適正に行う。						
	目標	施設及び車輛の維持管理。						
	事業実績	主要維持管理施設…本館等敷地39,531.97㎡、本館延床12,935.11㎡、水生生物保全センター延床 925.09㎡、子ども体験館アクアマリンえっぐ1,266.7㎡、取水ポンプ棟84.43㎡、ろ過送水棟180.04㎡						
	事業費 (単位:千円)	20決算 447,930	21決算 364,303	22決算 390,577	23決算 186,495	24決算 260,866	23/20 41.6%	24/20 58.2%
17	事業名	海洋文化推進事業					公益事業	収益事業
	事業内容	シーラカンスの学術研究を長期的なテーマとし、インドネシア諸島周辺海域等の調査を行う。						
	目標	インドネシア周辺海域等での、シーラカンス生態調査の実施。						
	事業実績	インドネシアにおいてシーラカンス生態調査を実施。また次年度のタンザニア調査に向けた関係機関との調整を行った。						
	事業費 (単位:千円)	20決算 29,885	21決算 16,993	22決算 17,410	23決算 3,114	24決算 8,531	23/20 10.4%	24/20 28.5%
18	事業名	スクール開催事業					公益事業	収益事業
	事業内容	海の生物に親しみ、自然の事象について興味、関心を高めること及び命の教育を推進することを目的に、各種スクールを開催する。						
	目標	キッズプログラム・ナイトプログラム、えっぐワークショップ、釣り体験の実施。						
	事業実績	キッズプログラム・ナイトプログラム…17回391名参加。えっぐワークショップ…参加者10,558名。釣り体験…参加者12,974組						
	事業費 (単位:千円)	20決算 1,599	21決算 4,912	22決算 20,077	23決算 6,265	24決算 11,015	23/20 391.8%	24/20 688.9%

※1 事業名:実施しているすべての事業を記載してください。

(ただし、事務局運営事業など管理運営的な事業は除く。)

※2 目標:事業の目標(原則数値目標、設定されていない場合は定性的な目標)を端的に記載してください。

※3 事業実績:目標に対する実績や事業実施に伴うサービス水準の量の変化等を端的に記載してください。

## 付表2:実施事業

19	事業名	ボランティア等活動事業					公益事業	収益事業
	事業内容	アクアマリンふくしまボランティアの会による自主的、積極的なボランティア活動を通して、来館者の学習活動を支援するとともに、多様な交流を促進していく。						
	目標	バックヤードツアーの実施、アクアマリンえっぐでのプランクトン解説等。						
	事業実績	ボランティア登録者数…20年度末217名、21年度末223名、22年度末237名、23年度末238名、24年度末231名。						
	事業費	20決算	21決算	22決算	23決算	24決算	23/20	24/20
(単位:千円)	5,721	2,922	2,245	1,968	2,254	34.4%	39.4%	
20	事業名	移動水族館事業					公益事業	収益事業
	事業内容	移動水族館専用車アクアラバンにより、各地域・各施設のイベント等へ出展し、海の生物に親しみ、自然の事象について興味、関心を高める。						
	目標	移動水族館専用車アクアラバンで、各地のイベント等へ出展する。						
	事業実績	移動水族館実施件数…22年度12箇所・観覧者16,017名、23年度6箇所・観覧者9,423名、24年度6箇所(9日開催)・観覧者19,438名(有料のみ/広報宣伝及び学校教育関連は除く)						
	事業費	20決算	21決算	22決算	23決算	24決算	23/20	24/20
(単位:千円)	-	-	2,611	1,370	2,470	#VALUE!	#VALUE!	
21	事業名	うおのぞき子ども漁業博物館事業					公益事業	収益事業
	事業内容	子ども達に昔ながらの漁業技術や文化を伝え、将来においても持続可能な漁業資源の利用を継続して、漁業の振興につなげる。						
	目標	伝馬船製作工程の紹介、塩作り等体験プログラムを実施。						
	事業実績	入館者数…22年度24,331名、23年度20,718名、24年度35,138名						
	事業費	20決算	21決算	22決算	23決算	24決算	23/20	24/20
(単位:千円)	-	-	15,302	6,370	12,181	#VALUE!	#VALUE!	

※1 事業名:実施しているすべての事業を記載してください。

(ただし、事務局運営事業など管理運営的な事業は除く。)

※2 目標:事業の目標(原則数値目標、設定されていない場合は定性的な目標)を端的に記載してください。

※3 事業実績:目標に対する実績や事業実施に伴うサービス水準の量の変化等を端的に記載してください。



## 付表2:実施事業

22	事業名	ミュージアムショップ等事業					公益事業	収益事業
	事業内容	ふくしま海洋科学館の来館者に思い出や感動を持ち帰っていただく財団直営のミュージアムショップを運営し、来館者サービスの充実を図る。						
	目標	売り上げ状況分析やオリジナル商品の開発に積極的に取り組み、売り上げの増加を図る。						
	事業実績	売上… 20年度282,252,458円、21年度300,022,724円、22年度282,063,891円、23年度77,748,817円、24年度136,626,784円						
	事業費 (単位:千円)	20決算 216,216	21決算 241,819	22決算 207,986	23決算 77,663	24決算 107,364	23/20 35.9%	24/20 49.7%
23	事業名	レストラン事業					公益事業	収益事業
	事業内容	アクアマリンふくしま「海を食べる」をテーマにおいしい水族館を目指してオリジナルシーフードメニューを提供し、来館者の利用促進、満足度向上と魚食普及を図る。						
	目標	水族館らしいオリジナルメニューを開発し、おいしい水族館として定着させ、収益増を図る。						
	事業実績	売上… 20年度10,554,499円、21年度10,380,605円(21年度までは委託手数料収受額)、22年度37,392,835円、23年度20,579,496円、24年度29,355,200円						
	事業費 (単位:千円)	20決算 4,512	21決算 3,851	22決算 49,995	23決算 32,149	24決算 41,492	23/20 712.5%	24/20 919.6%
24	事業名	イブニングイベント事業					公益事業	収益事業
	事業内容	潮目の大水槽前のスペースを「アクアマリン竜宮城」と称して、イブニングイベントに貸し出す。						
	目標	アクアマリンふくしまの目玉である潮目の大水槽前の空間を、閉館後有料空間として開放することにより、収益増を図る。						
	事業実績	イベント実施件数・・23年度2回155名、24年度5回410名						
	事業費 (単位:千円)	20決算 -	21決算 -	22決算 レストラン事業費内	23決算 レストラン事業費内	24決算 レストラン事業費内	23/20 #VALUE!	24/20 #VALUE!

※1 事業名:実施しているすべての事業を記載してください。

(ただし、事務局運営事業など管理運営的な事業は除く。)

※2 目標:事業の目標(原則数値目標、設定されてない場合は定性的な目標)を端的に記載してください。

※3 事業実績:目標に対する実績や事業実施に伴うサービス水準の量の変化等を端的に記載してください。

## 付表3: 経営状況

区 分		20決算	21決算	22決算	23決算	24決算	23/20	24/20
収支の状況	① 収入	2,002,498	3,148,088	2,016,339	2,238,212	2,202,739	111.8%	110.0%
	当期収入合計	1,885,344	2,941,830	1,811,389	2,060,228	1,991,870	109.3%	105.7%
	うち基本財産運用収入	1,885	1,778	1,778	1,778	1,778	94.3%	94.3%
	うち事業収入	1,149,708	1,239,103	1,201,042	348,659	698,402	30.3%	60.7%
	うち補助金等	670,724	606,986	541,615	1,337,448	1,286,504	199.4%	191.8%
	うち借入金	0	0	0	0	0		
	うち特定預金取崩	63,027	1,093,963	66,954	372,343	5,186	590.8%	8.2%
	前期繰越収支差額	117,154	206,258	204,950	177,984	210,869	151.9%	180.0%
	② 支出	1,796,239	2,943,138	1,838,355	2,027,343	1,954,188	112.9%	108.8%
	うち人件費総額	397,270	414,722	424,208	354,870	357,361	89.3%	90.0%
うち管理費(除人件費)	468,024	379,671	402,188	198,546	273,002	42.4%	58.3%	
うち事業費(除人件費)	930,945	2,148,745	1,011,959	1,473,927	1,323,825	158.3%	142.2%	
③ 当期収支差額	89,105	-1,308	-26,966	32,885	37,682	36.9%	42.3%	
④ 次期繰越収支差額	206,259	204,950	177,984	210,869	248,551	102.2%	120.5%	
財産の状況	① 資産	2,052,075	2,579,285	2,450,327	2,484,605	3,120,523	121.1%	152.1%
	流動資産	426,022	755,501	563,491	386,503	473,822	90.7%	111.2%
	固定資産	1,626,053	1,823,784	1,886,836	2,098,102	2,646,701	129.0%	162.8%
	② 負債	322,824	663,644	514,982	323,157	393,689	100.1%	122.0%
	流動負債	214,576	531,996	372,654	162,353	214,611	75.7%	100.0%
	うち借入金	0	0	0	0	0		
	固定負債	108,248	131,648	142,328	160,804	179,078	148.6%	165.4%
	うち借入金	0	0	0	0	0		
	③ 正味財産	1,729,251	1,915,641	1,935,344	2,161,449	2,726,834	125.0%	157.7%
	うち当期増減額	1,729,251	186,389	19,703	226,105	565,385	13.1%	32.7%

※1 「平成24年度事業報告書・決算書」及び「平成25年度事業計画書・予算書」を添付してください。

※2 「補助金等」には、補助金・負担金・交付金・委託料を含むものとします。

※3 「収支の状況」の区分は、貴会社等の勘定科目に合わせ、適宜修正することは可能です。

## 付表4: 経営分析

区 分	20決算	21決算	22決算	23決算	24決算	23/20	24/20
①公益事業比率	82.8%	84.4%	81.8%	88.7%	82.5%	107.1%	99.6%
支出額計	1,796,239	2,943,138	1,838,355	2,027,343	1,954,188	112.9%	108.8%
公益事業支出額	1,487,922	2,484,249	1,502,886	1,798,064	1,612,245	120.8%	108.4%
収益事業支出額	308,317	458,889	335,469	229,279	341,942	74.4%	110.9%
②直営事業比率	88.7%	96.7%	95.6%	97.7%	96.3%	110.1%	108.5%
支出額計	1,796,239	2,943,138	1,838,355	2,027,343	1,954,188	112.9%	108.8%
直営事業支出額	1,593,874	2,847,260	1,757,172	1,980,209	1,881,098	124.2%	118.0%
再委託事業支出額	202,365	95,878	81,183	47,134	73,090	23.3%	36.1%
③自主事業比率 (自主事業/支出額計)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
④施設等利用人数 (行政客体)	871,666	903,498	861,326	258,244	522,269	29.6%	59.9%
⑤施設等稼働率	365日	365日	345日	261日	365日	71.5%	100.0%
	2,388人/日	2,475人/日	2,497人/日	990人/日	1,431人/日	41.5%	59.9%
⑥補助金等依存率 (補助金額/当期収入合計)	35.6%	20.6%	29.9%	64.9%	64.6%	182.3%	181.5%
⑦流動比率 (流動資産/流動負債)	198.5%	142.0%	151.0%	238.1%	220.8%	119.9%	111.2%
⑧管理費比率 (管理費/支出額計)	26.1%	12.9%	21.9%	9.8%	14.0%	37.5%	53.6%
⑨人件費比率 (人件費/支出額計)	22.1%	14.1%	23.1%	17.5%	18.3%	79.2%	82.8%
⑩借入金依存率 (借入金/資産)							
⑪一人当たりの人件費 (人件費/総職員)	4,966	5,184	5,050	4,732	4,412	95.3%	88.8%
⑫一人当たりの事業収入 (事業収入/総職員)	22,755	23,076	20,746	22,482	24,505	98.8%	107.7%
⑬補助金等に含まれる人件費比率 (人件費/補助金等)	59.2%	68.3%	78.3%	26.5%	27.8%	44.8%	47.0%
⑭事業収入に含まれる人件費比率 (人件費/事業収入)	21.8%	22.5%	24.3%	21.0%	18.0%	96.3%	82.6%



## 付表5:組織人員体制

### 1 役職員の状況

(単位:人)

区分		20末	21末	22末	23末	24末	25(4/1)	24/20	25/20
役員 (監事含む)	常勤役員	2	2	2	2	2	2	100.0%	100.0%
	プロパー	1	1	1	1	1	1	100.0%	100.0%
	民間								
	県OB								
	県現職派遣	1	1	1	1	1	1	100.0%	100.0%
	その他								
	非常勤役員	11	11	10	10	10	9	90.9%	81.8%
	民間	8	8	7	7	7	7	87.5%	87.5%
	県OB								
	県現職	2	2	2	2	2	2	100.0%	100.0%
	その他	1	1	1	1	1		100.0%	
合計	13	13	12	12	12	11	92.3%	84.6%	
職員	常勤職員	41	43	41	44	44	48	107.3%	117.1%
	プロパー	32	36	35	39	39	43	121.9%	134.4%
	民間								
	県OB								
	県現職派遣	9	7	6	5	5	5	55.6%	55.6%
	その他								
	非常勤職員	37	35	41	29	35	25	94.6%	67.6%
	嘱託員	1	1	2	4	2	2	200.0%	200.0%
	臨時職員	32	30	34	19	18	5	56.3%	15.6%
	人材派遣	1							
	その他	3	4	5	6	15	18	500.0%	600.0%
合計	78	78	82	73	79	73	101.3%	93.6%	

- ※1 役員状況について、別紙2に記載してください。  
 ※2 平成25年7月1日現在の組織図を添付してください。  
 ※3 役員と職員を兼務する職員については、役員にカウントしてください。

### 2 職員の年齢構成(平成25年7月1日現在)

(単位:人)

区分		～30歳	31～35	36～40	41～45	46～50	51～55	56～60	61～
管理職員	プロパー					2		1	
	民間								
	県OB								
	県現職派遣				1				
	その他								
	合計	0	0	0	1	2	0	1	0
一般職員	プロパー	10	6	10	8	3	1	1	1
	民間								
	県OB								
	県現職派遣		1	1	2				
	その他								
	合計	10	7	11	10	3	1	1	1
総計	10	7	11	11	5	1	2	1	

付表6: 県の関与状況

区 分		20決算	21決算	22決算	23決算	24決算	25当初	24/20	25/20
財政的関与	①補助金等	530,593	492,885	479,530	615,038	427,519	400,715	80.6%	75.5%
	補助金	50,000	35,000	35,000	36,366	25,685	25,685	51.4%	51.4%
	負担金								
	交付金								
	委託料	0	0	0	0	0	0		
	指定管理料	480,593	457,885	444,530	578,672	401,834	375,030	83.6%	78.0%
	②貸付金								
	③損失補償額(契約額)								
	④債務保証額(契約額)								
	人的関与	⑤役員就任(監事を除く)	2	2	2	2	2	2	100.0%
常勤役員		1	1	1	1	1	1	100.0%	100.0%
県OB									
県現職派遣		1	1	1	1	1	1	100.0%	100.0%
上記以外の職員									
非常勤職員		1	1	1	1	1	1	100.0%	100.0%
三役									
部局長		1	1	1	1	1		100.0%	
県OB									
上記以外の職員							1		
⑥監事就任		1	1	1	1	1	1	100.0%	100.0%
三役									
部局長									
上記以外の職員		1	1	1	1	1	1	100.0%	100.0%
⑦評議員就任		1	1	1	1	1	1	100.0%	100.0%
部局長							1		
上記以外の職員		1	1	1	1	1		100.0%	
⑧職員派遣	9	7	6	5	5	5	55.6%	55.6%	
管理職員	1	1	1	1	1	1	100.0%	100.0%	
一般職員	8	6	5	4	4	4	50.0%	50.0%	

※1 「財政的関与」については、24年度決算の内訳を別紙1に記載してください。

※2 「人的関与」について、役員と職員を兼務する職員については、役員にカウントしてください。

※3 「⑧職員派遣」中の「管理職員」及び「一般職員」の「区分」は、県における身分によるものとします。このため、「付表5」の「2職員の年齢構成」の内容と一致する必要はありません。

# 別紙1

区分	名 称	24決算額
	補助等の目的	(単位:千円)
補助金	利用料金免除事業補助金	25,685
	広く海に関する学習の機会及び余暇活動の場を提供することにより、自然環境に関する理解の向上及び生涯学習の振興を図る。	
	補助金額合計	
負担金		
交付金		
委託料		
	委託料額合計	
指定管理料	指定管理者制度に伴う管理委託料 県民に海に関する学習の機会及び余暇活動の場を提供することにより、自然環境に関する理解の向上を図り、生涯学習の振興に資するふくしま海洋科学館の設置目的を効果的に達成するため管理を実施する。	401,834
貸付金		
損失補償額		
	損失補償額合計	
債務保証額		
	債務保証額合計	

## 別紙2

## 役員の状況

(平成25年6月末現在)

区分	定数	氏名	常勤・非常勤の別	職名	当初就任日 現任期満了日
理事長	1	安部義孝	常勤	元東京都恩賜上野動物園長	H12.4.1 別記
副理事長		(空席)			
専務理事		(空席)			
常務理事		阿部由之助	常勤	元福島県商工労働部経営金融課 課長	H25.6.25 別記
理事	4~12	上野輝彌	非常勤	国立科学博物館名誉研究員	H10.4.1 別記
		小宮輝之	非常勤	前上野動物園園長	H25.4.1 別記
		佐藤 毅	非常勤	小名浜まちづくり市民会議 会長	H25.6.25 別記
		橋本幸洋	非常勤	福島県企画調整部 文化スポーツ局次長	H25.6.25 別記
		谷口 旭	非常勤	生物生態研究所所長	H18.4.1 別記
		馬場典枝	非常勤	FMIいわきパーソナリティー	H25.4.1 別記
		本間 清	非常勤	NPO日本渚の美術協会会長	H25.4.1 別記
監事	2	丹野勇雄		丹野公認会計士・税理士事務 所代表	H25.4.1 別記
		西山茂樹		福島県企画調整部 企画調整課長	H25.6.25 別記

※別記 理事:平成27年6月に開催される定時評議員会の日まで

監事:平成29年6月に開催される定時評議員会の日まで

※「職名」については、常勤役員の場合は現職就任前の職名(元～と記載)を、非常勤役員の場合は、当該公社等以外の職名(市町村長等)を記載してください。